

令和6年  
63号

ICHINOKAI VOL.63

## いちいの会だより



ハロウィンパーティの様子

## くすのき苑 副施設長 戸辺 泰介

平素よりいちいの会、及びくすのき苑の運営にご協力いただきありがとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染対策のために敷かれていた様々な制限が撤廃され、社会が一気に感染流行前の様相に傾きました。その流れの中で当苑も世間とどれだけ足並みを揃えていくか迫られましたが、ウイルス自体が消えて無くなったわけでも、特効薬が出来たわけでもありません。施設の中にウイルスを持ち込ませないという命題は保ちつつ、恐る恐る外部との接点を回復していった、そんな一年でした。

具体的には、短期入所受入等の外部向けサービス、利用者様の外出や地域行事への参加、職員の研修会等への派遣を再開しました。常にリスクとは背中合わせではありますが、地域や社会との繋がりを実感する機会が増えたことで、これまでの閉塞感が徐々に和らいでいくのを感じています。

もともと当苑は外に開かれた風通しの良い施設を標榜しています。この数年は疫病のためにその理念が妨げられていましたが、ウイルス自体の根絶を祈りつつ、時間をかけて目指していた施設像に立ち返っていきたいと思います。

本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、皆様と共に素晴らしい一年を過ごせることを楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## ●目次●

- ◇新年のあいさつ..... 1
- ◇事業所あいさつ..... 2
- ◇新グループホーム  
しいのき紹介..... 3
- ◇行事ギャラリー  
ハロウィンパーティー  
職員日記..... 4
- ワークショップ  
秋祭り..... 5
- ◇家族会よりお知らせ  
ありがとうの会  
新任職員紹介  
編集後記..... 6

# 事業所だより

## くすのき苑

課長補佐 猪野 恭子

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

くすのき苑では、新型コロナウイルスの5類感染症移行後、できるだけ従来の生活を取り戻したいと考えてきました。感染対策は常に念頭に置きつつ、この数年の間に変化した利用者様の状況に対応しつつ、少しずつではありますが、利用者様との外出やご自宅への帰省を始めることができ、利用者様の笑顔を見ることができました。コロナ禍でも、苑の中で楽しんでいただける行事を行ってきたつもりですが、やはり苑から外に出ること、ご家族と過ごすことは利用者の皆様にとって大切な時間だと感じました。

そんなくすのき苑のお正月は、様々な理由で帰省が難しくなった利用者様が増えてきたこともあり、以前に比べると賑やかです。おせちを楽しみ、お散歩がてら初詣に行き、箱根駅伝を観ながらのんびり過ごします。

個人的には、お正月だからといって特に何をするということもないのですが、数年用意して、家族があまり食べないのでやめていた「おせちプレート」をまた作ろうか、悩みつつこの原稿を書いています。おせちの中で、まだ小学生の子ども達が喜んで食べるのは焼豚くらい。焼豚は作ろうかな…。

## ワークショップくすのき

課長補佐 吉田 和江

日頃より皆様にはご支援、ご協力を頂き心から感謝申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しましたが、マスクの着用や毎日の検温などは引き続き行い、感染症に配慮しながらの生活は続いています。

そんな中でも春日部イオンやイオン南柏店での販売会への参加、11月には4年ぶりにつくばエキスポセンターに日帰り旅行に行ってきました！久しぶりの日帰り旅行は短い時間ではありましたが、利用者さんも職員も大いに楽しんで来ました。今年も感染症に配慮をしつつ、コロナ禍前のような行事を復活させたいと考えております。

ワークショップくすのきの正月は年末年始休業となるため、毎年明けの日に全員の方と年初めの挨拶をするのが恒例となっております。一年に一度だけの年初めの挨拶は、ひと際清々しく感じます。今年も全員の方と元気いっぱい年初めの挨拶をして、良い一年をスタートします！

## いちいの木相談支援センター

所長代理 中村 成彦

相談支援センターいちいの木は、平成24年4月に開設しています。事業内容は、特定相談支援・障害児相談支援・千葉県障害児等療育支援事業・野田市相談支援事業業務委託の4つの事業を行っています。

職員は2名で、1名は、特定相談支援事業・障害児相談支援事業・野田市相談支援事業を行っています。1名は千葉県障害児等療育支援事業を専門に行っています。

正月は長期休暇になる事業所(日中活動場所)が多く、休み明けに日中活動場所に通所出来ない・外に出なくなる等の相談が来ることがあります。長期休暇でも生活のリズムを変えないで、生活をして欲しいと思っています。

## 中核地域生活支援センターのだネット

センター長 五十嵐 孝子

中核地域生活支援センターは24時間365日を謳っていますが、正月早々の相談は多くはなく、現在は電話転送で対応しています。しかし、開設当初はお正月も当番で事務所に来ていました。自分の当番の日、家族に車で送ってもらい、さて帰ろうとしたときに財布を忘れていることに気づき、「まめバスの回数券がある！」と喜んだのもつかの間。お正月は連休していました。正月から働いている家族に連絡するのも憚られ、川間から関宿の自宅まで歩いてみました。土手沿いを歩くのは気持ち良かったのですが2時間ちょっとの道のりは長いものでした。それからは自分の住まいを紹介するときに「駅から徒歩2時間ちょっとです」と説明するようにしています。

野田市は南北に広がっていてそれぞれに地域性もありますが、これまで培ってきた地域の絆を大切にしながら多様な相談に対して真摯に取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

# 新GHしいのき紹介

令和6年は2月に新たに建築したグループホームの開所が控えています。

一昨年の冬頃より設計士を交え、「入居者様のよりよい生活」と支援のしやすさをテーマに打ち合わせを重ね、令和5年10月に完成、11月には内覧会を開催いたしました。

内覧会当日は雨が降る等、生憎の空模様でしたが、大勢の皆様にお越しいただき、セレモニーを執り行うことができました。

特に、キッチンの隣をバスルームとしたことやインナーバルコニーの設置は好評を頂きました。

キッチンの隣がバスルームのため、食事を作りながら入浴の様子が確認できること、また、インナーバルコニーにより、天候やアレルギーに影響されず、衣類を管理できることは大きなメリットと感じています。支援のしやすさが、入居者様の生活の安心感に繋がることを期待しています。

グループホームかえで 課長補佐 金 隆史



しいのき外観



バスルーム



内覧会の様子



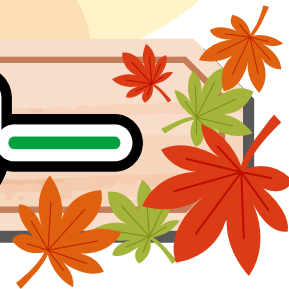
インナーバルコニー



リビング



# 行事ギャラリー



## 行事の様子

## ハロウィンパーティー

新型コロナが5類になったことで、今年度は、ご家族を招待してのハロウィンパーティーを実施する予定でしたが、前日に利用者様のインフルエンザの感染が確認された為、急遽中止となってしまいました。その為規模を縮小して、1寮と2寮で別々の開催となりました。1寮では過去の思い出の動画を流しながら、利用者の皆様と職員がそれぞれ仮装をして、みんなでハロウィンを盛り上げました。2寮ではケーキを食べたり、ゲームや仮装をしたり、皆さん楽しめていたようです。今年は少し残念な結果になりましたが、来年は盛大に開催できたらと思います。

くすのき苑 主任生活支援員 葛原 聖人



## 職員日記

毎年8月になると、私の住んでいる住宅で夏祭りを開催しています。

今年は、コロナでずっと中止していた夏祭りを4年ぶりに開催することになりました。

事前からの準備と、1週間前、当日の準備があります。久しぶりの事もあり忘れてしまっていることなどを思い出しながらやりました。カラオケ、盆踊り、ビンゴ、その他に食べ物や生ビール、おもちゃ、子供も大人も一緒になって楽しめる夏祭りが私は大好きで、毎回準備から参加しています。ビンゴは景品が良いので皆に人気がありますが、盆踊りは、参加者が少ないなど課題が多く残っています。今年、職場の人に声を掛けてみると、盆踊りとカラオケ大会に参加し、優勝景品を手に入れとても喜んでいました。

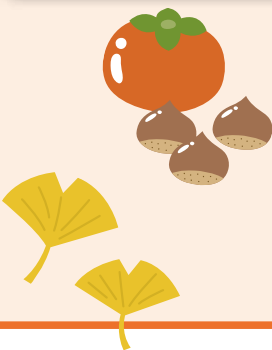
苑でもたくさんのイベントがあります、準備は大変ですが、利用者様の喜んでる顔を見ているだけで幸せな気分になれます。これからも若い職員に支えてもらいながら、支援していきたいと思います。

くすのき苑 生活支援員 金子 純子

# ワークショップ秋祭り

「村の鎮守の神様の～♪」どこからともなく聞こえてきそうな村祭りの歌がピッタリとくる清々しくて気持ちの良い秋晴れの11月2日、今年もワークショップくすのきのお祭りを盛大に開催しました。今回のお祭りのテーマはずばり「縁日」。あひるすくいや指人形作り、的当てにピンポン玉入れ等の趣向を凝らした煌びやかな出店の数々。ゲームに成功して景品の駄菓子を手にするたびに歓喜の声を上げる利用者の皆さん、美味しくて楽しいをコンセプトにしたピュッフェスタイルのランチでは満開の笑顔を溢れさせて美味しそうに食事を頬張っていました。どこか昭和レトロな雰囲気を行彷彿とさせた今回のお祭り、利用者の皆さんと共に職員も一緒になって大はしゃぎ、皆で大いに楽しむ事ができて大盛況のうちに幕を閉じました。さて来年は何をテーマのお祭りにしようかな！？職員の間では早くも構想が練り始められています。来年のお祭りにも乞うご期待を！

ワークショップくすのき 生活支援係長 山田 宗成



## 家族会よりお知らせ



グループホームかえでの皆様

家族会より、利用者の皆様へお菓子と飲み物を、残暑見舞いとしていただきました。

いちいの会 家族会会長 染谷 信一

みなさまには大変お世話になっています。いちいの会家族会を代表して心よりお礼申し上げます。新型コロナの日本での発生から5年経過しようとしています。感染症5類となってもまだ感染が収まらず、これからはインフルエンザなどと同様に日常的に感染の恐れと付き合っていくことが必要となっています。

利用者の高齢化に伴い職員のみなさまには、年々お手をかける点が増えてくるのではと危惧しています。利用者の中には「痛み」を上手く表現出来ず我慢して、動けなくなって(例えば虫垂炎が解らないで多臓器不全まで進行して)病院に搬送されるというような事案も発生します。利用者の発するシグナルに「気づきを大切に」とお願いし、更にみなさまの健康と利用者の安心安全を心よりお祈り申し上げます。



## ありがとうの会



10月31日に伊藤さんありがとうの会を行いました。12年分の写真をまとめ職員からのメッセージも入ったメモリアルムービーを皆で見たあと、ジュースで乾杯して最後のご挨拶をしました。2寮で長く勤務していたのでご家族からも多くの惜しむ声が聞かれ、抜けた穴は大きいですが職員一同力を合わせ、利用者さんのよりよい生活のために頑張っていきます。伊藤さん、寂しいですが、新しいところでも頑張ってください！

くすのき苑 生活支援員 小澤 祐子

## 新任職員紹介



いちいの会に入職したのは2013年11月でした。

福祉の仕事は未経験で支援とは？というところから経験を積み、令和5年の9月に正職員となりました。

パートの時とはまた立場も仕事内容も違ってまだ慣れない業務もありますが、早く一人前になれるように頑張ります。

そして、ワークショップくすのきの利用者さんが安心して過ごせるように支援していきたいと思えます。

ワークショップくすのき 生活支援員 金子 由香

## 編集後記

実家では大晦日に蟹をまるごと茹でて食べるのが恒例で、毎年手をふやかしながらも、それぞれ自分で剥きながら食べています。今年も家族で蟹を囲んで、のんびり過ごすのが楽しみです。(清宮)

雪国出身の私が千葉に来てから約8年が経つ。いつしか雪のない冬が当たり前となっているが、着ている服は周りから見たら大分薄着らしい。関東の冬に溶け込む日は来るのだろうか。(片倉)

社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑

〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121

TEL :04-7120-6667

FAX:04-7120-6668

発行責任者 総合施設長 清本 健二郎

編集 清宮・片倉

発行日 令和6年1月吉日

